



分科会 10 長期実務実習元年 —実りある実習を求めて—

W-10-04 第1期実務実習を受け入れて

たかやま ともこ
高山 朋子

三重県 伊勢度会調剤薬局

三重県薬剤師会では長期実務実習に備えて平成16年に実務実習受入委員会を立ち上げ、予想される種々の問題点について検討を重ねてきた。

実務実習受入委員会では、指導薬剤師の養成を第一に考えるとともに、充実した指導が行えるよう、11週間のスケジュール作成、資料・教材の収集を行い、更に実際の現場での問題点を把握するため、三重県を10地区に分けた地区別の談話会も重ねてきた。

同委員会ではまず、日本薬剤師会が例示した「薬局実務実習における11週間のスケジュール 例」を基に、進捗度が一目で確認できるようなスケジュール表の作成を行った。次に、指導薬剤師に個々の薬局でのスケジュールの立て方、薬局製剤・漢方製剤の実施へ向けた企画など、直接指導する機会を設け、また現場の指導薬剤師の緊張の緩和がモチベーションの維持には重要であると考え、学生を受け入れる事に対する不安の解消など精神面のサポートも行ってきた。

当薬局では、第1期に学生を1名受け入れた。実習の開始前に大学の教員2名と、当薬局の関係者の他、今期同じ大学より学生を受け入れる三重県南部の指導薬剤師数名を集め、事前説明、顔合わせを行った。

また実習初日となる5月17日には、三重県を南北二つに分け、地区委員が主催し、合同で学生のオリエンテーションを行った。薬剤師倫理規定・薬剤師綱領、個人情報保護法、守秘義務についての説明、医療倫理についてのグループディスカッションなどを行ったことにより、実習に臨む学生にとっては良い刺激となり、モチベーションを上げることに繋がったと思われ、大変有効であった。

このような準備を経て、初めての長期実務実習はスタートした。第1期の11週間にわたる実務実習を受け入れ、その中から見えてきた課題について報告したい。